

健康食イノベーション推進事業

データヘルス・リビングラボ静岡

健康・食に関わる商品、サービス、システムなどを、開発試作段階から、住民×地域×企業×大学×行政などさまざまなステークホルダーが参画して、実証に基づき検証するプラットフォーム
 データヘルスの考えをベースとし、将来的には、PHR(Personal Health Record)等のビッグデータも活用しながら、一人ひとりに対応できる健康支援の考えに基づいたビジネスモデルの創出をめざす

静岡県立大学は、静岡県と連携して、健康食イノベーション推進事業を行っています。この事業は、大きく分けて次の3つの柱から成り立っています。



1. 機能性開発プラットフォームの構築

2. データヘルス・リビングラボ静岡の構築

<https://www.livinglabs-shizuoka.jp/>

データヘルス・リビングラボの体制を整備するとともに、リビングラボの“場”を活用し、ワークショップ等で、住民、事業者、大学、行政などが、意見や情報を交換し、新たなビジネスモデル創出のイノベーションをめざす

3. 新たな健康食産業を先導する専門人材の育成

データヘルス・リビングラボ静岡の役割(1)

開発試作段階の商品・サービス・システムなどの実証事業

- *臨床試験に移る前段階までのモニタリングを実施
- *モニタリングのためのフィールドの調整・設定
- *モニタリングを通してヘルスデータ※1を測定・収集・提供 ※1測定できる項目は別途ご確認ください

専門的知見・ノウハウの提供

- *測定データによりモニタリングを数値化し分析*
- *データに基づいた助言やノウハウを提供

ヘルスデータの管理及び提供

- *「見える化データ」(健康・食事・認知)の収集管理と提供
- *ヘルスデータの活用支援(講習会・情報発信・研究会等)

【データヘルス】

「近年、健診やレセプトなどの健康医療情報は、平成20年の特定健診制度の導入やレセプトの電子化にともない、その電子的管理が進んでいます。これにより、従来は困難だった電子的に保有された健康医療情報を活用した分析が可能となってきました。データヘルスとは、医療保険者がこうした分析を行った上で行う、加入者の健康状態に即したより効果的・効率的な保健事業を指します。」(厚生労働省ホームページ「医療保険者によるデータヘルス/予防・健康づくり」より)

【リビング・ラボ】

リビング・ラボは北欧で広まった考え方です。「リビング=生活の現場」と「ラボラトリー=研究室」を合わせて「一人ひとりの生活シーンが研究の場である=リビング・ラボ」と捉えます。生活の場を舞台に、地域の皆様から自主的に提供されたデータの分析を踏まえ、大学、企業、行政などが、地域の皆様と対話しながら、新しい製品やサービスを創り出すことをめざします。日常生活での発想や気づき、さらには不安や課題も大きなヒントになります。持続可能な未来社会を、リビング・ラボの“場”で共に語り、考えていきます。

健康・食に関するデータ

*リビングラボ静岡で活用できる「見える化」されたデータやデータベース

「健康の見える化」データ

ウェアラブル端末の活用
 地域住民の協力のもと、Fitbitを着装。
 日常生活において、歩数、歩行距離、心拍数、消費カロリー、睡眠の質などを24時間モニターし、そのデータを匿名でクラウドに格納。



Fitbitについて



「食事の見える化」データ

食育SATシステムの活用
 実物大の食品模型(フードモデル)を使用して、食事の量や栄養バランスなどを短時間で測定。
 世代、性別による食事選択や栄養バランスについての情報を収集。



SATについて



「認知の見える化」データ

アプリ「のうknow※2」の活用
 「記憶する」「考える」「判断する」などの脳の健康度を測定。



のうknowについて

※2 Cogstate Ltd. (本社：オーストラリア) が開発した認知機能テストで、エーザイが日本において商業化権を所有

機能性食品素材データベース

静岡県立大学および静岡県立大学と共同研究を実施している静岡県試験研究機関、静岡県内の企業等が、開発・製造する機能性食品素材を紹介するデータベース。



データベースサイト